



UP-LE

Vol. 25

1995年12月22日

学校法人コア学園
飯田コンピュータ専門学校
〒395 長野県飯田市松尾明7591
☎0265-22-5111・FAX.0265-22-5100

夢見る頃を過ぎても

情報化社会



先日行われた那野比古先生による講演会は地域情報化社会について将来のマルチメディア構造に関するものでした。これからの高齢化社会に対して、役立つメディアになっていくことが期待されています。

南向きの大きな窓

そして今、再び、

「ソフトがなければ…」

学校長 榎原英勝

「コンピュータソフトが無ければただの箱」詠み人知らずの川柳でもないが、言い得て妙と言うか、正にコンピュータのハードとソフトの関係を端的に表現した言葉で、就中、コンピュータシステムに於けるソフトウェア(プログラム)の存在をアピールするキャッチフレーズである。

ただし、今回のソフトは、正にコンピュータが扱う情報の中身としての「ソフト」である。今流行の言葉で言うところの「コンテンツ(内容)」であって、正確な情報、新鮮な情報、真に必要な情報、そしてこの地方ならではの情報である。

システムエンジニアやプログラマーをはじめとする所謂ソフトエンジニアの活躍の世界であって、OS(オペレーティングシステム)と云われる基本ソフトから、文書作成、財務会計や生産管理等々各種の業務を処理するアプリケーションソフトウェアまで、数多くのソフトウェアが開発され、コンピュータ(ハード)の中でプログラム(ソフト)が、その作業を手順良く消化して行く。こうして、このハードとソフトの両輪が相俟ってその機能を発揮する。

昨年、この地に「飯伊地域メディア振興協会」が発足された。「地域からの情報発信」それによる「地域振興・活性化」をテーマに研究が進められている。本校は新年度に向け、この協会や学校協賛会をはじめ多くの方々のご理解ご支援をいただきながら、情報化推進の拠点としての役割を些かなりとも果たしたいと、新たな試みの準備中である。

今やコンピュータは、ビジネスの世界では勿論のこと家庭生活を含む日常のひとつの道具と化しつつある。ハードとソフト、中でもソフトウェア技術の進展が、コンピュータをぐっと身近なものにしてきた。

「マルチメディアコース」設置とインターネットの利活用研究等の「(仮称)メディアアサロン計画」がそれであるが、地域情報(ソフト)の発信地となり得るべく力強く推進したいものと念願している。

そして今、話題は、それら世界中のコンピュータによるネットワーク(インターネット)

「マルチメディアコース」設置とインターネットの利活用研究等の「(仮称)メディアアサロン計画」がそれであるが、地域情報(ソフト)の発信地となり得るべく力強く推進したいものと念願している。

那野比古氏の講演を聞いて

一年

9月27日に平安閣で行われた那野比古氏の講演を聞いての感想だが、あまりコンピュータの事に詳しくない僕にとっては難しい講演だったと思う。LANについての話ではLANをいわずらで使う事は許されない行為だと思った。一本の通信回線で、文字や音声、静止画像、動画画像を送る事ができるマルチメディア時代のおおじさん達のイン

ターネットへの加入が増加している原因がただ猥褻な静止画像の目的だけだというのが非常に残念に思えた。せっかくのインターネットをこのような事に使われていることに對してもっとましなことでインターネットを使っただけでなければいけないのではないかとつくづく思った。今度、またこのような講座が開かれるのであれば、インターネットを良い事ですごく活用しているということを那野比古氏の講義で聞きたいと思う。

なのひこ先生の特別講座

二年

「おもしろい名前」
「那野比古」なのひこ、という名前を初めて聞いたとき、失礼だがそう思った。「那野」とは、実際は日本の神話の中からとったそうだが、マルチメディア関連の仕事をしている先生と聞いていたので、おそらく、10のマイ・ン9乗の「ナノ」からとったのだろうと単純に考えていた。

の話はいい意味で意外だった。身体障害者。社会的には弱者とされる人たちが、自分達にできることを探し、力を合わせてひとつの仕事を成し遂げた。社会で立派に生きていけることを、誰にも頼らずに証明したのである。健康者にだってなかなかできることではない。しっかりと自分の人生を生きていこうとする人達の強さを自分も見習いたいと思う。あらゆる所で。

広域情報化社会の到来

弱者に優しい(?)
マルチメディア

一年

去る七月二十七日、シンポジウムがありました。いわゆるところの、「一般の人の、マルチメディアに向ける期待」などを知る事ができ、とても内容の濃いシンポジウムだったと思います。

さていきなりですが、専門学校の生徒らしくない発言をさせて頂きます。このシンポジウムの中で那野比古先生の話された内容通り、「マルチメディアは本当に、全ての障害者に優しい」

のでしょうか。私見を言わせて頂くと、必ずしもそうではないような気がします。というのは、マルチメディアがいかにも万能であるかのような歌い文句が頻りに使われていた時期があったからです。本来は、その危険性についてこそ詳しく掘り下げなければならぬのでは……?

そしてもちろん、今回のシンポジウムもそれに漏れていないような気がしました。それはともかくとして、マルチメディアが本当の意味で期待されている事がわかり、良いシンポジウムだったと思います。

米国の情報化社会の到来



インターネット

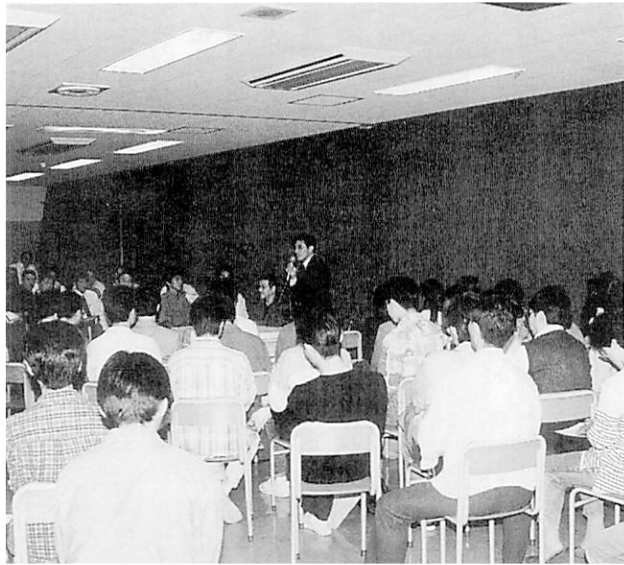
人以上に達するといわれている。

世界最大のコンピュータネットワーク。一九七〇年に米国防総省の高等研究計画局が、PANET構築を決定した。このネットワークは全米科学財団に発展し、現在ではインターネットの基幹ネットワークになっている。世界一四〇カ国以上のネットワークと接続され、利用者数は、二五〇〇万人〜三〇〇〇万

現在の日本では、富士通などがインターネットと接続する商用サービスの提供を開始した。

将来の日本では、商業などにはあるが、身体障害者や高齢化社会に對応出来るインターネットの情報化社会を日本全体で考えていかなければならない。

歴史上の人物を人形を通して再現し続ける先生の情熱に何かを感じる人もいることでしょう。講演会では、初めて劇中で使われていた人形の大きさを認識しました。



川本喜八郎とCGGの世界

川本喜八郎とCGGの世界

一年

日本の人形アニメーションでとても有名な川本先生と語る機会がありました。先生はどのような作品で活躍されているかというと、NHKの人形劇「三国志」、「平家物語」などの代表作があげられます。

「あんなに小さいんですね」と、思わずこぼしてしまいました。先生の話はほんの数十分間ぐらいいいか聞いていないのですが、とても個性があふれている方なのだろうと、自分で思いこんでしまいました。個人的にも好きな人物の人形のファンですから、良い機会だったと思います。

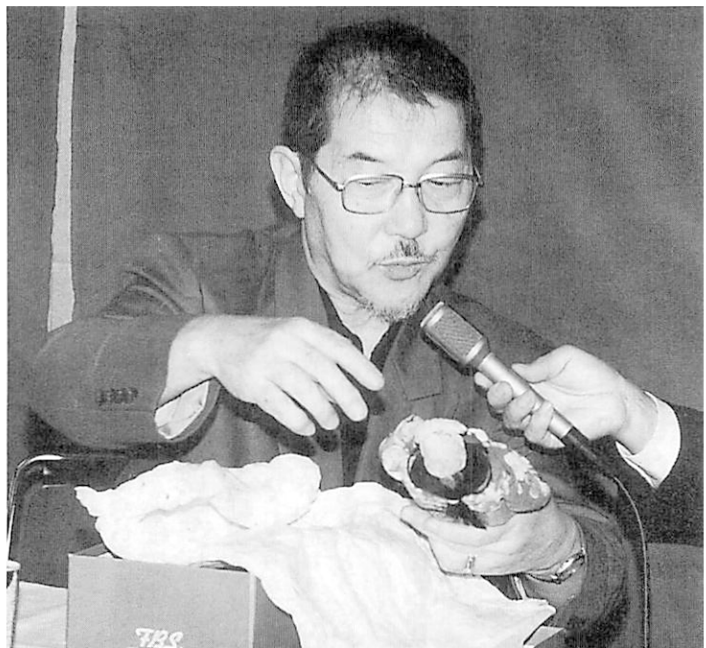


川本喜八郎先生を迎えて

一年

この後援会に関して、実行委員はそれなりの苦勞をしていたのではあるのだが、当日は皆さんも知っているとおりのアクシデントの連続でした。運が悪かったとしか言いようがありません。思いがけない事ばかりでした。今更当日の失敗談(?)を書き始めても、見苦しいだけかもしれないですが、この場を借りて書かせていただきます。

当日の計画は我らなりに万全でしたが、レンタルしてきた映写機の不良が本番になって出てしまったわけです。川本先生の話も当然、予定通りにはいかず、先生の作品の上映は日を改めて後日、検討することになりました。実行委員の仕事も大変でしたが、全てが無駄になったわけではないから「よし」とすべきなのでしょう。



人形劇の世界

—川本喜八郎の夕べ—

二年

この飯田市に人形劇の博物館(?)らしき物ができるといふ。この関係から、わが飯田コンビュータ専門学校に、人形劇アニメーションでお馴染みの川本喜八郎先生をお迎えして公開特別講座が行われた。川本先生のお話を伺う前に、先生が作った人形劇のアニメーションを見ることになった。いざ映画(?)を見てみると、なかなか幻想的なものであった。

さて、ここからが大変なことになった。映写機が壊れてしまい、先生が作った映画が見れなくなってしまったのだ。実行委員は焦り始め、お客さんからざわめきが：そんな中、川本先生が優しく「映写機は壊れることもある。大学でこのような催しがある場合は1時間前にはテストをやるんだけど、素人だからしょうがない」とおっしゃった。その間に何とか映写機も復活し先生の映画も見れました。ただ、先生のお話があまり聞けなくて残念だった。

伊那谷に 国会議事堂を

飯田文化会館にて「伊那谷に国会議事堂を」というテーマでシンポジウムが行われた。当校では特別授業の一環として参加させていただいた。

シンポジウムの中で衆議院議員の村田敬次郎先生が「どのような所に国会議事堂を作ったらよいか」また「こんな所がよいのでは」というテーマで基調講演をしてくださった。

まず、首都にする適当な場所は、現在の首都「東京」から60km〜300kmの間。自然が豊かな場所。東京一極集中から多極分散型国土の形成。いわゆる、地方分権を推進し北から南まで魅力ある都市と地域作りを推進する。という内容という内容であった。

最後に、新首都5W1Hとして

WHERE? 国会を中心とした司法、行政、立法機関等。

WHEN? 2年以内に場所を選定。

WHY? 今後の検討課題。分散型国土へ。

「首都移転計画」というプロジェクトがもちあがっていることとはずいぶん前から知っていたが、まさかその候補地のひとつとして長野があがっているとは思わなかった。無難なところで大阪か京都、あるいは、仙台あたりが適当な候補地だと思っていたからだ。が、長野には関東のような広大な平野はない。果たして首都をもってこれるのだろうか?。

しかし、「心配はない」らしい。なにも首都を丸ごとをもってこようと言うわけではないそうだ。移転計画の会長が言われるには、自分達は、いわゆる「選都」をしようというのではなく、アメリカのように、首都の機能のみを分散して各地へ移す「分都」。それがこの計画の目標であり自分達の理想だと。そういう観点から見れば、なるほど伊那谷は、環境はまあまあだし、首都圏からさほど遠くはないし、「行政や司法」の中心的都市にはなりえるかもしれない。が、個人的意見として、「経済・産業」の中心的な場所には成り得ないと思う。「経済・産業」の役割を受け持つには、やはり関西方面のほうが、現実的にも歴史的にも実績があるから地盤堅めが容易だろうし、機能しやすいのではないだろうか。

HOW? 今後の検討課題。首都機能移転、第三次報告は三月中旬に行われる予定である。

伊那谷に 国会議事堂を?

二年

「首都移転計画」というプロジェクトがもちあがっていることとはずいぶん前から知っていたが、まさかその候補地のひとつとして長野があがっているとは思わなかった。無難なところで大阪か京都、あるいは、仙台あたりが適当な候補地だと思っていたからだ。が、長野には関東のような広大な平野はない。果たして首都をもってこれるのだろうか?。

各種合格者

B 検

3級

小池 玲子 篠田 淳子

2級

佐々木 葉子

J 検

3級

北原 早苗 黒川 和彦

W 検

2級

矢沢 庸弘

4級

桜井 一臣 吉沢さおり 篠田 久美

3級

長谷川圭司

ビジネス文書

3級

北原 早苗 酒井 大介
佐々木葉子 篠田 淳子
下田 優子 遠山 博志

簿記

4級

塩沢 恵子

3級

木下 友美



あと数日でクリスマス。その前に、無事新聞が完成するのだろうか? いつもこんなことばかり書いていました。でも今回は違う。予定通り進んでいました。やっとの思いでUP-LEが完成したのです。

今回はあまりにも学校行事が少なく、悩みに悩みました。このような状況の中でUP-LEが出来上がったことに、ホッと胸をなで下ろしています。

新聞作りというのはとても大変なことで、毎日が緊張していた日々が続いていました。このような状態で作り終えた今、充実感がただよっています。

最後に、こんな頼りない委員長で、委員の皆さんには迷惑ばかりかけていましたが、それでも協力をしてくれありがとう!! また、嫌々ながら原稿を書いてくれた皆さんありがとう!! 心から感謝しています。

最後まで読んでくれてありがとう! それではまた...

Merry Christmas
AND

よいお年を!

SCHEDULE

12/23~3/8

(12月)

23日 天皇誕生日

24日~1月7日 冬休み

(1月)

4日~6日 スキー教室

8日 年始式

15日 成人の日

27日 一般入試

(2月)

9~10日 学園祭

(卒業研究発表会)

11日 建国記念日

秘書技能検定(2・3級)

12日 振替休日

20日~23日 卒業試験(2年)

24日 一般入試

(3月)

4日~7日 1年後期試験

8日 卒業式